

一般演題 ポスター発表

演題分類：1 調剤関連業務

演題：注射払出しシステム更新による業務効率化及び安全対策強化について

○常陰芳之、篠原瑠璃、尼谷こゆは、上り口誠、酒井美和、山田真人、宮下尚子、砂田悦代、末森千加子、太田あづさ、黒田明子、中尾あゆみ、辻本純子、相生勇作、中谷宰士

(兵庫県立西宮病院薬剤部)

【目的】当院では従来、注射薬は個人毎、Rp 毎にアンプル及びバイアルを薬袋にセットし、輸液は病棟毎にまとめて払出していたが、輸液を含む個人セット化を目的として、2015年2月にカート方式の注射薬払出しシステムに変更した。同時に、返品薬払出装置を導入し、業務の効率化及び安全対策の強化を行ったので報告する。

【方法】薬剤部を事務局として、看護部と薬品搬送業者をメンバーに加えたワーキンググループで注射薬払出し方法の変更を検討した。システムの更新前に3回実施し、現状の把握と意見の調整を行い試行した。試行後には、運用の見直しを行った。

【結果】システムの更新：以前はRp 毎に薬品を揃えて袋詰めし、患者毎にまとめて払出していたが、更新後は薬品と認証用ラベルがRp 毎にトレイにセットされて、注射薬自動払出し機から出力される。輸液は、薬剤師がダブルチェックして、トレイにセットすることにした。これにより、病棟での輸液のセット及び薬袋を整理する業務が不要になった。また、薬品搬送時間に合わせた処方を取り込み時間を設定し、速やかに搬送できる体制を構築した。返品薬払出装置：病棟から返品された薬品を仕分けることなく、装置のトレイに入れると機械が自動的に薬品毎、有効期限毎に仕分けし、注射がオーダされた場合に有効期限の近い薬品から払出される。これにより返品業務にかかる時間が短縮された。

【考察】薬剤師が輸液の個人セット化を行い、病棟で看護師が再度確認することで安全性が向上したと考える。また、処方の取り込み時間を設定することにより、効率的な業務が行えるようになった。更に、返品薬払出装置を用いて機械的に返品処理を行うことで、ヒューマンエラーを回避し、返品間違いによるリスクが軽減し、業務量も軽減した。

【結論】システム更新は、業務効率化に繋がり、リスク軽減にも有用であった。今後も注射業務の検討を行い、更なる業務の効率化を図っていきたい。